

高松市一般廃棄物処理基本計画中間見直しについてのパブリックコメント実施結果

本市では令和5年3月9日から3月20日までの期間、高松市一般廃棄物処理基本計画中間見直し（案）についてのパブリックコメントを実施しました。貴重な御意見をいただき、大変ありがとうございました。今後の本計画の見直し等において、参考とさせていただきます。

以下にいただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方を、まとめましたので、公表いたします。

- 1 意見総数 5件（1人）
- 2 いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方

※ 提出いただいた御意見は、趣旨を変えない範囲で、簡素化又は文言等の調整をしています。

No.	御意見（要旨）	市の考え方
1	他県から引っ越してきたが、「破碎ごみ」という名称に馴染みがなく、ごみの分別方法を理解するのに時間がかかった。わかりやすい名称にしてはどうか。	御指摘をいただきました「破碎ごみ」は、燃やせないごみのうち、破碎処理施設にて処理を行うものです。燃やせないごみのうち、処理方法が異なる有害ごみや、缶・びん・ペットボトル、プラスチック容器包装等の資源ごみと区分する意味合いもございます。 破碎ごみが一般的な燃やせないごみを指すことについては、ごみ分別ガイドブックやホームページ、ごみ分別促進アプリ「さんあ〜る」等で、破碎ごみ（燃やせないごみ）とカッコ書きで表記することで周知しておりますが、今後も、適正なごみの捨て方について、解りやすく周知するよう努めてまいります。

2	<p>プラスチック容器包装ごみについて、汚れが取りきれないものや分別に迷った時には燃やせるゴミに入れている。</p> <p>どの程度、汚れを取ればプラスチック容器包装ごみとして捨ててもよいか。紙がある程度ついていても大丈夫なのか等、わかりやすい基準を示されたい。</p> <p>また、ごみ分別一覧表を見てごみを分別しているが、載っていないものがあり、迷うことがよくある。品目等の掲載内容を充実されたい。</p>	<p>プラスチック容器包装の出し方につきましては、中身を使い切っていただき、食器を洗った残り水等を利用して、目で見て汚れが取れている程度に濯いでいただいた上で、プラスチック容器包装として分別をお願いしております。</p> <p>御参考として、市町村から分別基準に適合したプラスチック製容器包装を引き取り、再商品化を行っております日本容器包装リサイクル協会によりますと、「汚れていない」と判断する目安は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 中身が使い切られていること ② サッと洗った形跡があること ③ 全体的にベツタリと汚れが付着していない <p>中身が見えないチューブやボトルの場合は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ④ 逆さにして中身が出てこないこと ⑤ 容器の口部にベツタリと汚れが付着していないこと <p>と、しています。</p> <p>汚れを取り除けないものにつきましては、破碎ごみとして出していただきますようお願いいたします。</p> <p>また、シールやラベルの貼られているプラ容器包装は、再商品化にあたって品質低下の原因となることから、除去が困難なものは破碎ごみとして排出してください。</p> <p>ごみ分別一覧表につきましては、年に一度見直しを行っており、一例として、令和5年3月改訂版には「検</p>
---	---	--

		<p>査キット（新型コロナウイルス、インフルエンザ等）」等も新たに掲載するなど、その時々に合わせて品目の追加等を行っております。今後も、分別区分を分かりやすく周知するよう努めてまいります。</p>
3	<p>指定収集袋について、取っ手付きは一見便利そうではあるが、ごみが引っかかりこぼれることがよくある。長方形の方が利便性が高い印象だ。また、素材については最近バイオマスゴミ袋の導入が増えている。環境に優しいイメージがあり、高松市でも導入検討中とのことで、前向きに検討されたいが、価格面での懸念がある。</p>	<p>指定収集袋は、口の結び易さ、及び運搬のし易さを考慮し、取っ手付きの形状を採用しております。御理解賜りたく存じます。</p> <p>バイオマスプラスチックごみ袋の導入につきましては、現在、含有率10%、20ℓサイズのものを作成し、試験的に中央通り一斉清掃等で使用しております。指定収集袋への導入につきましては、他市の動向なども参考に、価格面も含めて検討を進めてまいります。</p>
4	<p>2016年度の基準年度に対し、2022年度の間目標年度では最終処分量の増加が見られている。原因の一つとされる溶融スラグの有効活用は難しいのか。県内外の知見を有する企業等との連携の可能性はあるか。</p>	<p>南部クリーンセンターでごみ焼却処理した際に発生する溶融スラグにつきましては、現在、埋立処分の際に覆土として使用する花崗土と混ぜて有効利用するとともに公共工事の際の埋戻し土の代替えとして利用を推進しております。</p> <p>また、県内外から溶融スラグの有効利用について、連携協議を行うこともしておりますが、有効利用まで実現していないところが現状であります。</p> <p>今後も引き続き、県内外の知見を持つ企業様との連携も含めて、最終処分量の減量のため、有効利用を推進してまいりたいと考えております。</p>

5	<p>本計画中の市民アンケートの実施から5年以上が経過している。環境問題への社会的意識の高まりもあり、市民の考え方や行動にも変化が起きている可能性がある。近々再度アンケートを実施してはいかがか。</p>	<p>本計画のアンケートは、計画策定時の参考とするために行っておりますので、10年に一度の実施としておりますが、本計画の上位計画にあたる環境基本計画の来年度の見直しに向けて、今年度、市民、事業者に対する環境意識に関するアンケートを実施したところであり、6月までにはその結果を公表できる予定です。</p> <p>また、本計画に関連する「高松市地球温暖化対策実行計画」「高松市食品ロス削減推進計画」においても、直近に実施したアンケートの内容を反映しておりますので、その時々結果を注視しながら、施策に反映してまいりたいと存じます。</p>
---	---	--